

第6回

碓井中学校区小中一体型校施設整備協議会

資料

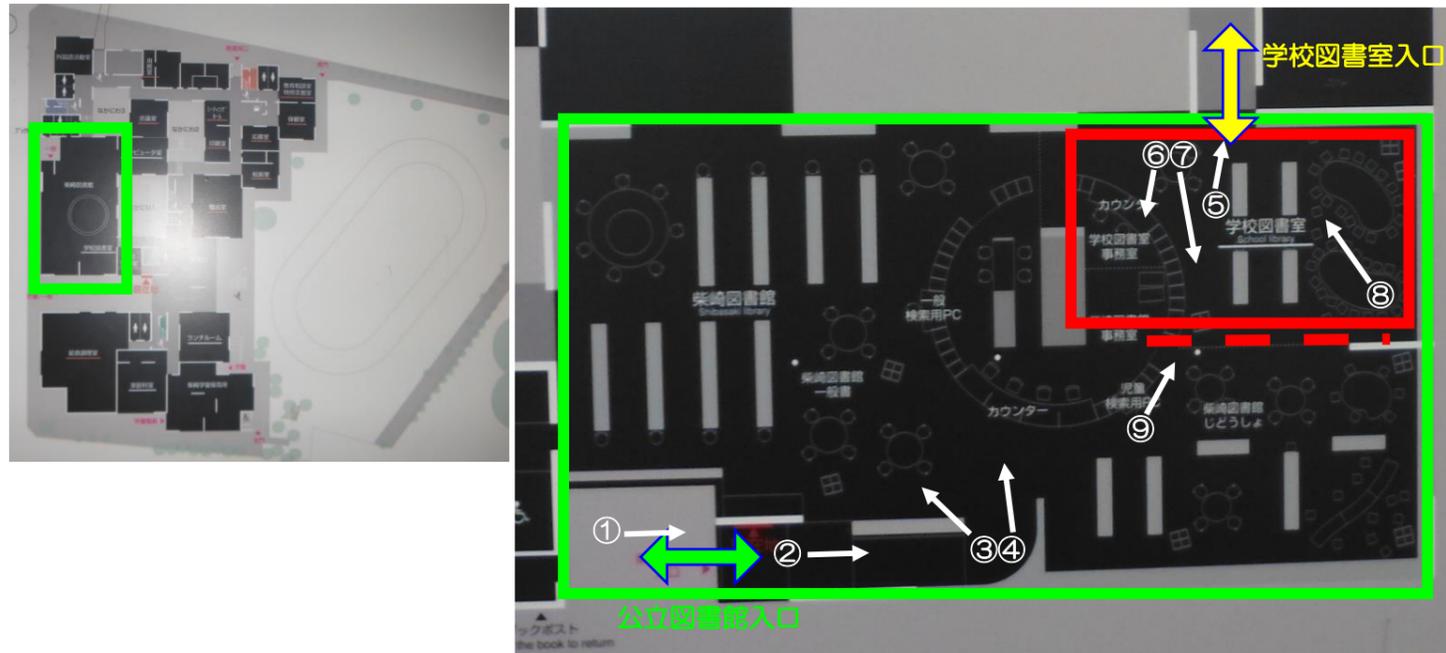
平成30年12月20日

公立図書館併設の利点と課題

【資料9】

利点	課題	課題対応策
<ul style="list-style-type: none"> • 読み聞かせなどの地域活動がより身近になり、図書ボランティアが近くで活動することにより、児童生徒が本に触れる機会が増える • ボランティア活動、地域活動の拠点として活用でき、おはなし会などで地域の方や乳幼児と触れ合う機会をもてる • 施設同士の協力による催物（企画展示やワークショップ） • 蔵書の幅が広がる（専門書など） • 図書館を身近に感じることで、休日や卒業しても通いやすい環境を作ることができる • 就学前の子ども達が児童生徒とふれあい、学校の雰囲気を知れる • 中学校区に公立図書館を残せる • 公共施設での規律を身近に学ぶことができる 	<ul style="list-style-type: none"> • 不審者対策などの安全管理面 • 施設管理の区分 • 貸出しシステム • 学校図書の貸出し • 学校の優先利用について • 学校敷地内での設置になると一般の利用者が利用しにくくなる可能性が考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> • 明確な動線の区分け（出入り口を別にする、臨機応変に対応できる図書館の間取りなど） • 監視カメラの設置や、地域ボランティアなどの配置 • 公立図書館と学校の管理区分を明確に分離する • 貸出しシステムの統一 • 貸出し範囲の取り扱いを定める（学校図書を一般に貸し出すのかなど） • 学校エリアと開放エリアの優先使用について運用方法にて対応 • 一般利用者が寄りやすい動線の確保

学校図書室と公立図書館複合化の事例（東京都立川市）



小中一体型校における教室形状について

普通教室の空間構成

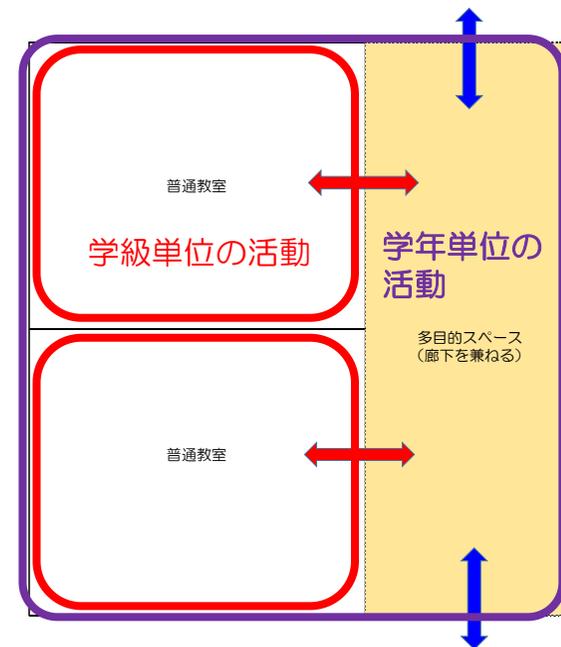
日常的に展開される多様な学習内容・学習形態に弾力的に対応できる空間構成

小学校

- オープンスペース型とし、学年ごとにユニットを構成
- 広い廊下が多目的スペースを兼ね、学年単位でのまとまりを重視
- 普通教室とオープンスペースの間には可動式の間仕切りを設置し学級単位の活動に対応

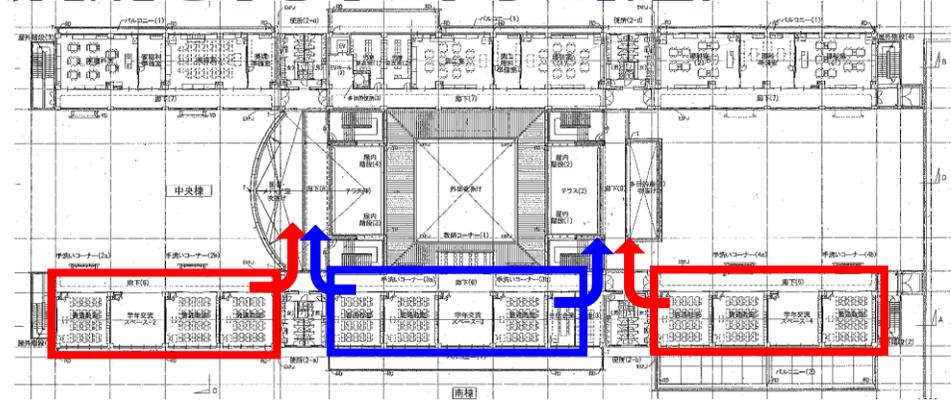
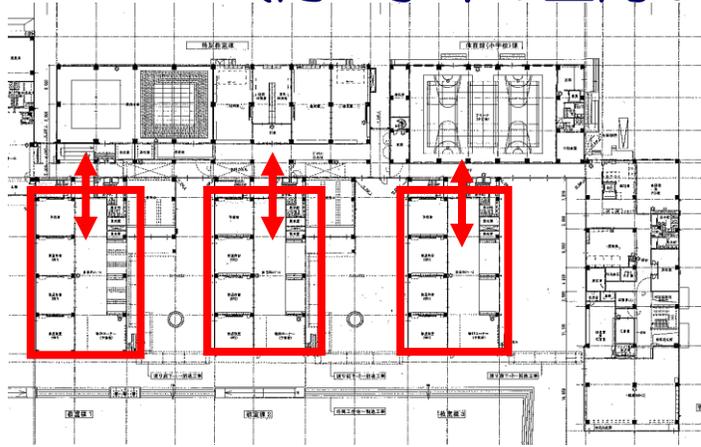
中学校

- 生徒が主体的に学ぶことを重視して、大型モニターなどの情報機器を備えた教科教室を2～3教室配置
- 落ち着いた学級活動が確実に実施できるよう、普通教室同等のホームベース (HB) を配置し、教科教室を配置していない教科についてはHBで授業を実施
- 教室外にロッカースペースを配置し、スッキリした教室内環境を目指す



小学校：学年ユニット配置の考え方

(同一学年の空間が通過動線部分とならないように計画)



学年ユニット出入口



オープンスペース



小学校：可動式の間仕切り

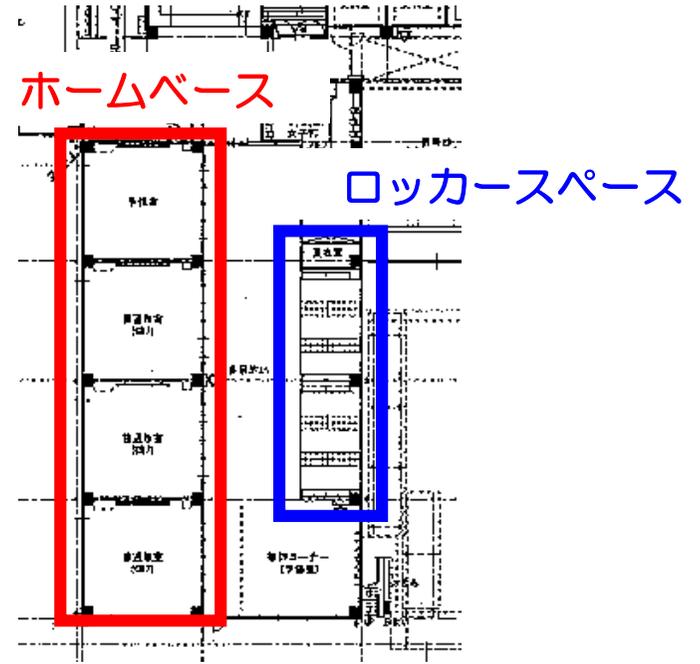
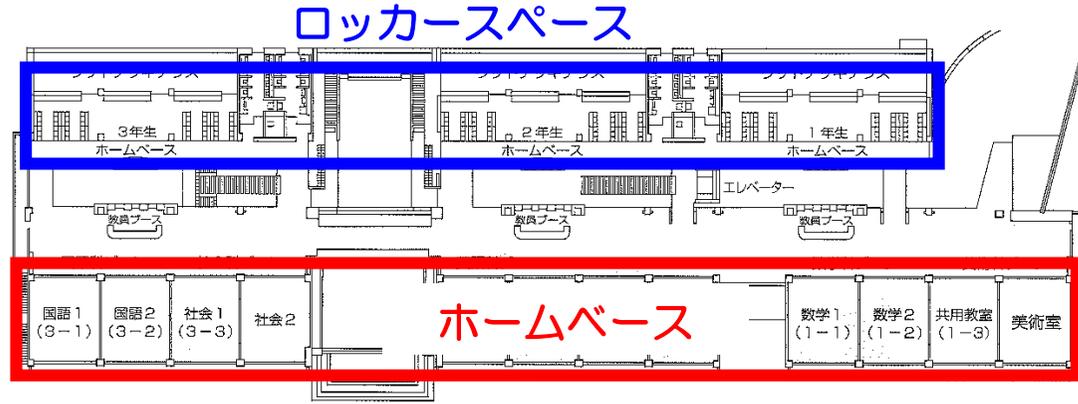


教室とオープンスペース間
可動式の間仕切りの例
(※一体型校に採用予定)



移動ロッカーで簡易間仕切り
防音性能無し

中学校：教室外にロッカースペースを配置 情報機器等を備えた教科教室の配置 (2~3教室)



教科教室

- ICT機器の整備
- 教室内環境の整備



中学校ロッカースペース



十分なロッカー容積を確保



※中学生ロッカーとしては容量不足！